

2026. 3. 31



山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817

Eメール：a50401@pref. yamaguchi. lg. jp）

## 【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

## 【山口県子ども読書支援センター行事】

\*各イベントの詳細については、当センターのホームページよりご確認ください。 ⇒



### ★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：令和8年4月14日（火）5月12日（火）11：00～11：20

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度

### ★「春のスペシャルおはなし会～たべものえほんマルシェ～」

○日時：令和7年4月29日（水・祝）10：30～11：15

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○内容：絵本の読み聞かせや、親子で読書に親しむワークショップ

○対象：幼児・小学生の子ども及びその保護者（小学校3年生までの幼児・児童には保護者の付添要）

○定員：30人（要申込み・先着順。保護者の人数を含む。）

○参加費：無料 ○申込方法：来館または電子申請（HPの要項をご覧ください。） ⇒



## 【新刊紹介】 価格は消費税抜き

### <絵本-乳幼児から>

『くつしたど～こだ?』 オガワナホ/[作] 偕成社 2026.2 ¥1200

せんたくまえのくつしたは9そく。それぞれのかたつぼが、どこかにおさんぽにいったみたい。いっしょにさがしにいこう。しましまくつしたはへやのなか、みずたまくつしたはそとのゆきだるまといっしょにいるね。りぼんのくつしたにながーいっくつした…みんなをそろえられるかな。身近なシチュエーションをテーマに、さまざまな色や形、模様こふれながら楽しめる絵さがし絵本

『ちいさなショベルカーベルン』 すとうあさえ/作 早川純子/絵 童心社 2026.1 ¥1400

しゃこにあたらしくやってきたミニショベルカーのベルンは、おおきなショベルカーたちのようにがんばろうとおおはりきり。しかしはじめてのこうじげんばでは、ちいさいからとなにもまかせてもらえず、そのままかえることに。がっかりしていたベルンだが、つぎのひにようちえんへよばれ、ベルンにしかできないしごとをたのまれて…。働く車の活躍を柔らかなタッチで描く絵本

### <絵本-5, 6歳から>

『だれでもどうぞ こどもしょくどうカバさん』 内田麟太郎/ぶん 南塚直子/え 童心社 2026.2 ¥1700

ひろしさんとあやこさんの「こどもしょくどう カバさん」は、はじめてから3かもたつのに、おきやくさんはひとりだけ。そこで、ひろしさんがかんばんに「だれでもどうぞ」のもじと、かさおぼけのえをかくと、それをみたおんなのこがはいってきた。さらにカバやサイ、ゾウ、ほんもののおぼけたちまでやってきて…。“みんなの居場所”としての子ども食堂に焦点を当てた絵本

### <絵本-小学校低学年から>

『はるかむかしにいたこども』 チャック・グルニク/作 中野怜奈/訳 光村教育図書 2026.1 ¥1900

かぞくとたびをしてくらすネアンデルタール人のこども。ほらあなでおとなたちがやすむあいだ、たにまにでてあそんでいと、かわをはさんで、おなじようなかおつきのホモ・サピエンスのこどもとであい…。絶滅した人類とのかつての邂逅を、科学的事実に基づいて想像した絵本。巻末に作者あとがきあり。また、原書の参考文献のうち日本でも出版されている3冊を紹介している。

### <絵本-小学校中学年から>

『ミラーさんちのころころがるおひっこし ほんとうにあった話』 デイヴ・エガーズ/文 ジュリア・サルダ/絵 青山南/訳 化学同人 2026.1 ¥2200

アイダホ州のベルビューという町から6キロはなれたところに今もあるりっぱな家は、ヘンリー・ミラーという人がたてたものだ。もとはベルビューにあったその家は、ミラーさんがなくなったあと、つまのアニーによって町の外までうごかされたのだった。そのおどろくようなやりかたとは…。20世紀初頭のアメリカ西部で実際にあった出来事を、ユーモラスな語り口で伝える絵本。

### <読み物-小学校低学年から>

『すきがいっぱい』 谷川俊太郎・西加奈子/詩 西加奈子/挿画 世界文化ワンダーグループ 2025.12 ¥1700

「おかしのおとおいしいのおはおんなじお」（「おとお」谷川俊太郎より）、「おかあさん、いうたら、みんながしってる、あれか？あれやな？」（「おかあさん」西加奈子より）。二人の作家による詩の往復書簡。森羅万象をインパクトのあるシルエットで書いた挿絵担当は西氏。言葉が響きあう詩26編を収録。

<読み物ー小学校中学年から>

『銀のゾウと不思議な友だち』 藤重ヒカル/作 こより/絵 金の星社 2026.1 ¥1400

4年生最初の日、かりんは教室で銀の折り紙でできたゾウを見つけた。それを折ったというサラと仲良くなるが、その日の下校中、二人とも交通事故にあう。病院で目覚めたかりんは、サラが面会謝絶と聞く。数日後、体の痛みがあるものの登校しようとするかりんだが、曲がり角にさしかかると一歩も動けなくなり…。時空を越えて育まれる少女達の友情物語。

<読み物ー小学校高学年から>

『ふたりのマンガ線』 庭野るう/作 フレーベル館 2026.1 ¥1600

成績優秀だが友達を作ろうとしない鍊磨（れんま）と、明るく元気な秘（ひめる）は6年生で同じクラスになる。正反対の二人だが、ある出来事からマンガを共作することに。勉強との両立や親への反発、他人からの心無い評価など、様々な課題に立ち向かいながらも絆を深める少年たちの爽やかな青春物語。第5回フレーベル館ものがたり新人賞大賞受賞作。

<読み物ー中学生から>

『トビウオの声を聞いた日 ギリシャの海とエレナの秘密』 マイケル・モーパゴ/作 佐藤見果夢/訳 評論社 2025.12 ¥1500

オーストラリアに住む少女ナンディは、ギリシャから来るたびに神々や英雄の話をしてくれるエレナ大叔母が大好き。高齢のため来られなくなったエレナに会うため、ナンディは高校卒業後にギリシャへ向かう。旅先で出会った不思議なトビウオから、エレナの第二次世界大戦での悲惨な体験や大地震を生き抜いた半生を聞いたナンディは…。自分の生きる道を見つけていく少女の物語。

<ノンフィクションー小学校低学年から>

『たおれる？たおれない？3本あし』 かんちくたかこ/文 北村裕花/絵 菊地灯/原案 講談社 2026.1 ¥1900

ピアノの足台が壊れてしまったことをきっかけに、3本足で立っているものに興味をもったわたし（当時小学4年生の菊池灯さん）。色々な形を台座にして3本足の模型を作って調べると、ある「きまり」に気が付いて…。筑波大学がノーベル物理化学賞を受賞した朝永振一郎博士の功績を称え実施しているコンクール「科学の芽」賞受賞作品の絵本化第1弾。

<ノンフィクションー小学校中学年から>

『石巻こども記者魂！』 なかのかおり/著 ONOCO/絵 静山社 2026.1 ¥1500

「子どもの、子どもによる、子どものための」新聞として、東日本大震災から1年たった2012年3月11日「石巻日日こども新聞」が発刊された。子ども記者たちが取材を通して出会いや経験を重ね成長していく姿を、再構成した当時の新聞と共に掲載。子ども記者たちが大人になった現在、どんな夢を追いかけ、どんなことに挑戦しているかも紹介する。

<ノンフィクションー小学校高学年から>

『シロくんとパレスチナの猫』 高橋美香/文・写真 かもがわ出版 2025.12 ¥1800

瓦礫の中を歩く猫、いなくなった主人をいつまでも探す猫、残飯をねらい待ち構える猫…。世界中で活動する写真家である著者の愛猫シロくんの目を通して、近年のパレスチナの人々と猫たちの様子が綴られる。パレスチナの人たちが置かれ続けている悲惨な占領の現実を穏やかな文体で語りかけるように伝える写真絵本。巻末に本文写真キャプションあり。

<ノンフィクションー中学生から>

『友だち以上恋人未満の人工知能』 川原繁人/著 KADOKAWA 2026.2 ¥1800

AI に対し懐疑的だった言語学者の著者が、対話型 AI への依存と脱却の経験をふまえ、AI 倫理や AI との共存、活用の際の留意点や適切な距離の取り方等について考えたことをまとめた1冊。擬人化された AI が登場する会話劇と AI 目線での解説、著者による小文からなる。巻末で AI の仕組みや環境への負荷について解説するほか、あとがきにて本書執筆の際の AI 活用方法も簡単に紹介。

<研究書>

『蛾のおっさんが聞く学校図書館のもやもや35』 山本みづほ・野口久美子・野口武悟/著 郵研社 2025.11 ¥2000

全国の学校司書たちが抱える35の「もやもや」について、3人の著者が現実的なアドバイスを踏まえてわかりやすく回答。学校図書館や学校司書に関する基本的な解説あり。著者は元中学校国語教諭・司書教諭で学校図書館現場に詳しい山本氏、大学教授で学校図書館等が専門の野口久美子氏と野口武悟氏。『蛾のおっさんと知る衝撃の学校図書館格差』（2019年）に続く第2弾。

『作家とランチ インタビュー・児童文学の13人』 日本児童文学者協会/[編] りょうゆう出版 2025.10 ¥1800

石川宏千花、令丈ヒロ子、村中李衣（山陽小野田市在住）、朽木洋など、2000年代以前から活躍する児童文学作家13人とランチをともしながらインタビューした連載記事12編（雑誌『日本児童文学』2023年1・2月号～2024年11・12月号掲載）に1編を加えて書籍化。創作活動にかける思いなどが真摯な言葉で語られており、作家や作品への理解が深まる1冊。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索（OPAC）では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→  
<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary/>

